


しのみき

発行年月日 2023年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田434
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119



矯正研修所跡地の旧豊多摩監獄表門（2023年8月撮影）

みたび 三度の別離を経て

歴史民俗資料館 館長 佐藤 加奈

今年、令和5年（2023）は、関東大震災から100年の節目の年にあたります。

豊多摩郡野方村（現・新井三丁目）の豊多摩刑務所もまた、大正12年（1923）の震災時、甚大な被害をこうむりました。外壁は倒壊し、刑務所のシンボルである美しい時計台は土台のみを残し崩れ落ちました。

時を置かずに始まった復旧工事では多くの建物が鉄筋コンクリート造で建て直される中、表門だけは創建時の意匠のほとんどを失うことなく残されました。

その後も、刑務所は中野の地にあって、長らく刑事施設として機能し続けることとなります。しかし、昭和58年（1983）に刑務所は廃止となり、表門以外の建造物はすっかり取り壊されました。

跡地につくられた矯正研修所は平成29年（2017）、昭島市へと移転。同地には区立小学校の新校舎が建てられることから、区の指定有形文化財である表門を残し、研修所の建物は昨年から今年にかけて解体されました。

——こうして表門は、竣工から110年近い年月の中で、周囲の建物と別れ、ひとり取り残されるという運命を大正、昭和、令和と三度たどることになりました。

今年8月、大きな被害をもたらした台風7号。台風一過のあくる日、私は矯正研修所の跡地を訪れました。緑色の防草シートにできた水たまりの先に、表門はひっそりと、そして気高く佇んでいました。

表門は来年から始まる予定の工事で敷地の西側へと曳家され、令和9年（2027）度以降、一般に公開される見込みです。

- ・企画展「発生から100年 記録された関東大震災」
令和5年10月3日（火曜日）から12月3日（日曜日）まで開催
- ・コーナー展「旧豊多摩監獄表門関連展示 2023」
令和5年11月28日（火曜日）から翌1月14日（日曜日）まで開催

文化財よもやま話

—青梅街道の醸造業と石臼塚—

令和5年（2023）6月6日（火）～7月30日（日）まで企画展「Yes!農!—育てる、食べる。中野の農業—」を開催しました。

主に近世以降の中野で作られた農作物や農具、農村風景写真、農業にまつわる信仰を紹介するものです。

中野区南部を東西に横断する青梅街道は、江戸城築城の際に用いられた石灰を運ぶ道として開かれ、やがて中野村で作られた野菜、多摩地域の穀物・野菜を集荷し、江戸市中へ送るルートとして機能しました。

幕末から明治にかけて、青梅街道周辺では蕎麦製粉、味噌や醤油、ビール醸造が興り、中野と新宿の境を流れる神田川では水車が設けられ、石臼で蕎麦粉を挽くのに使われました。蕎麦製粉は大小あわせて6社、味噌と醤油が2社ずつ、ビール醸造は1社です。

蕎麦製粉は、初期は蕎麦の実の黒い殻と抜き身に分ける「抜き屋」として発達し、明治中期から蕎麦粉までの製造を行うようになりました。石森製粉株式会社（蕎麦）と株式会社あぶまた味噌（味噌）は、工場機能は他所に移転しながらも、現在も青梅街道沿いにあります。

青梅街道沿いの宝仙寺境内には、石臼を集めてタワーのようにした「石臼塚」があり、噴水塔となっています。蕎麦の一大消費地となった江戸・東京では蕎麦粉の多くが中野から供給され、中野蕎麦と言われたようです。しかし機械化が進み、使われなくなった石臼が街道のあちこちに放置され、それをみた宝仙寺の第15代住職が「人の食のために貢献した石臼を大切に供養すべきである」として建立したものです。

石臼塚のほかにも、中野坂上駅のハーモニースクエア南広場には、石森製粉で使われていた石臼が、椅子として置かれています。石臼塚と石臼の椅子は、青梅街道沿いで発達した製粉業を今も伝えているのです。

（北河）



石臼塚 頂上の石臼は甘酒をすっていたもの

大地に眠る歴史

近現代の遺構の調査

「発掘調査」と言われて皆さんが想像するのは、どのような遺跡の調査でしょうか。縄文時代の貝塚や古墳などが挙げられるかと思います。平成10年（1998）に文化庁が発行した通知では、おおむね中世までに属する遺跡については、原則として調査の対象として取り扱うこととされています。

では、それ以降の時代の取扱いはどうでしょうか。近世に属する遺跡は、地域において必要なものを、近現代の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができるとされています。しかし、この基準が曖昧であるが故に、開発事業と埋蔵文化財保護との調整は、困難なものとなっています。このことについては、港区で発見された「高輪築堤跡」でも話題となり、現在でも議論が繰り返されています。

もっとも、近世や近現代のものであったとしても、地域の歴史を紐解くためには、しっかりと発掘調査を行う必要があるということに変わりはありません。近世や近現代となると、文献や写真などが存在していることもありますが、それらのみではわからない当時の人々の生活を復元するという重要な役割が発掘調査にはあります。

区内では、江古田遺跡の第1次調査で、大正時代に竣工した結核の療養所である「東京市療養所」の煉瓦積みの建物の基礎や、そこで使われていた飲料・医薬品等のガラス瓶を多数検出しており、当時の医療や患者の生活を考察するうえで貴重な資料となっています。

また、令和3年（2021）6月に区の指定有形文化財となった「旧豊多摩監獄表門」の周りでは、下の写真のように、監獄周囲を囲っていた煉瓦塀の基礎や、その後の時代に設けられた鉄格子塀の基礎が確認されています。途中まで解体された煉瓦塀の上に鉄格子塀が築かれており、写真等のみではわからない建築の過程を垣間見ることができます。（比留間）



古文書つづり

なまず え
鯰 絵 — ちょっと風変わりの災害の記録 —

当館では、令和5年（2023）10月3日（火）～12月3日（日）まで企画展「発生から100年 記録された関東大震災」を開催します。本展では、大正12年（1923）に発生した関東大震災に関連した資料の他、これまで日本で発生した地震災害について紹介するコーナーを設けます。

大震災発生を記した資料の中で、関東大震災とよく比較されたのが、江戸時代の安政大地震です。今回は大地震発生当時の実状をうかがわせる資料として、鯰絵を紹介します。鯰絵とは、江戸時代以前から地震が起きる原因とされていた、大鯰を主題とする浮世絵です。大地震の発生した安政2年（1855）ごろから多く出回りました。

当館所蔵「流行鯰の大費画」では、擬人化された鯰が筆を片手に思案している様子が描かれています。「大費画」とは、東海道の宿場・大津宿で手軽な土産物として名物だった「大津鯰」と、大地震の復興・再建に際して多額の出費があった事をかけた洒落と考えられます。その理由は、資料を見ていくと分かります。

注目すべきなのは画中左側で踊っている人々で、彼らは大工や鳶職、左官などの土木事業者です。また、



作者不詳「流行鯰の大費画」(安政2年(1855)ごろ)

画中右上から始まる文の中には「屋ことなき(やんどなき)御恵み尽セ努(ぬ)御代」〈訳:この上ない恩恵が尽きない治世〉と書かれています。この一節と併せて考えると、被災地の復興が進む中で、仕事が増えた土木事業者が利益を上げていた事を、踊っている人々を描く事で表現していると解釈できます。

多くの鯰絵で鯰と敵対しない存在として、時に風刺の対象にもなったのは、土木事業者など災害復興の中で凶らずも利益を得た人々でした。

鯰絵は一見ユーモラスに見えますが、画中の表現や文章に注目すると、大地震発生当時の実状をうかがえます。書籍や地図とも異なる、江戸時代ならではの媒体に記録された資料といえるでしょう。(一戸)

中野往来

新道 沼栄橋 開設記念碑

かつて中野には大場村と新橋村がありました。現在の大和町あたり一帯は江戸時代より大場と呼ばれていました。『新編武蔵風土記稿』には、「大場村は古へ沼袋村の内にて正保の頃も猶村名をあらはさず、元禄の頃のものに始て上沼袋村枝郷大場村とのせたり、されど大場の唱は古へよりのことにして北篠家人所領役帳にも中野内大場と見へたれば…」と書かれています。大場の名前の由来は「あたり一面原野と雑木林の続く、広い地域」からきているという説と「周りは谷になっていてこの場所は台地であるという地形」からきているという2つの説があります。明治から大正時代にかけても、この辺りは、人家もほとんどなく、雑木林や原っぱが広がる場所だったといえます。

一方、新橋村は、新橋の名がすでに江戸時代の始めにあり、元禄頃、下沼袋村の枝郷新橋村として独立し、民家は19軒ほどだったようです。明治初年に下沼袋村と合併し、その後、明治中頃に新橋は大字下沼袋の小字となりました。新橋の名の由来は明らかではありませんが、

せんが、文明9年（1477）豊島氏と太田道灌の江古田原沼袋合戦の後、新しい領主のために橋をかけたからという言い伝えが残っています。

明治22年（1889）、現在の中野区域北側の7か村が合併し、野方村になり、明治35年（1902）には現在の野方WIZの場所に野方村役場ができました。人の往来は増える一方なのに道路が整備されていませんでした。そこで、地域の人々の手によって、妙正寺川に橋を架け、立派な道路が開設されました。この道路は元の大場村と新橋村の境界付近であったことから、大場村と新橋村の一文字ずつを取り、大新横丁（大新通り）と名付けられました。また妙正寺川に架けられた橋は、当時の字名、上沼袋と下沼袋が共に栄えるようにと「沼栄橋」と命名されました。(榎木)



大正14年(1925)5月建立

事業報告

各種事業経過

2022年10月～2023年9月

事業名	内容	期間
企画展	「コドモの遊びと学び」 「おひなさま展」 「Yes! 農! 育てる、食べる。中野の農業ー」	R4. 10/4～12/4 2/14～3/12 6/6～7/30
館蔵品展	「中野でめぐる郷土玩具の旅」 「『中野区史』ができるまで」 「『メディア』が伝えたこと」 「むかしの道具の工夫」	R4. 9/1～10/30 1/17～2/28 4/18～6/4 8/1～10/1
コーナー展	「旧豊多摩監獄表門関連展示ー区指定文化財紹介ー」 「地域展示『大和町』〈棟方志功生誕 120 年記念〉」	R4. 12/6～1/14 9/9～10/29
ミニ企画	「文化財防火デー」 「夏休み学習コーナー展『戦時中の暮らし』」 「江古田獅子舞」※その他年間を通して様々な年中行事を紹介しています。	1/17～1/31 7/23～8/31 9/12～10/8
夏休み講座	れきみんサマーフェスタ 2023 「勾玉作り」「かんたん組みひも」「コロコロ貯金箱」「むかしの暮らし体験」 「ボードゲーム・マンカラ作り」「牛乳パック日時計」「金魚の紙ふうせん」 「手作り紡錘車 DE 糸つむぎ」	7/23～8/31
講座	哲学堂講座「一から学ぶ哲学堂」 講師：佐藤 厚氏 古文書講座 講師：笠原 綾氏、大友 一雄氏 伝統文化体験講座「お能にチャレンジ!」講師：小島 英明氏	9/23・9/24 R4. 9/24～10/29 9/2～10/14 3/4・3/11
公開事業	秋季「山崎家庭園・茶室の公開」 春季「山崎家庭園・茶室の公開」	R4. 10/1～10/30 4/22～5/7
その他	小学校総合学習見学 22 校	

埋蔵文化財対応

2022年4月～2023年3月

弥生町5丁目12番民有地立会 (4/12)	沼袋2丁目18番(5号棟)民有地試掘(8/30) [国庫補助]	松が丘2丁目14番民有地立会 (11/4)
本町6丁目6番民有地立会 (5/2)	沼袋2丁目18番(3号棟)民有地試掘(8/31) [国庫補助]	江古田2丁目13番民有地立会 (11/9)
江原町2丁目12番民有地立会 (5/24)	南台2丁目8番民有地立会 (9/2)	江古田4丁目9番民有地立会 (11/15)
沼袋1丁目29番民有地立会 (6/2)	松が丘1丁目34番民有地立会 (9/2)	野方2丁目63番民有地立会 (11/17)
新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地確認 (6/7) [国庫補助]	弥生町6丁目8番(南)民有地試掘(9/26～ 9/27) [原因者]	本町2丁目15番民有地立会 (11/28)
松が丘1丁目34番民有地立会 (6/9)	新井3丁目37番(北)民有地試掘(9/28～ 9/29) [原因者]	野方2丁目63番民有地試掘(12/14～12/15) [原 因者]
弥生町1丁目21番民有地試掘(6/10) [原因者]	若宮1丁目4番民有地立会 (9/28)	弥生町6丁目8番民有地本調査 (12/19～R5. 1/20) [原因者]
新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地試掘 (6/13～6/24) [原因者]	白鷺2丁目41番民有地立会 (10/11)	松が丘1丁目10番民有地立会 (12/21)
新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地確認 (6/29) [国庫補助]	沼袋2丁目18番(1号棟)民有地試掘 (10/14) [国庫補助]	南台5丁目27番民有地試掘(12/23) [原因者]
本町2丁目18番民有地試掘(7/7) [原因者]	弥生町5丁目25番民有地立会 (11/1)	江古田2丁目18番民有地試掘(1/10) [原因者]
本町2丁目18番民有地本調査(7/28～8/4) [原因者]	弥生町6丁目8番(南)民有地本調査 (11/1～12/19)	本町5丁目34番民有地試掘(2/8) [国庫補助]
弥生町1丁目22番民有地立会 (8/4)	沼袋2丁目18番(2号棟)民有地試掘(11/4) [国庫補助]	鷺宮4丁目20番民有地試掘(2/9) [原因者]
本町3丁目15番民有地試掘(8/8) [原因者]		江原町2丁目31番民有地立会 (2/21)
白鷺2丁目29番民有地立会 (8/23)		沼袋3丁目17番民有地立会 (3/2)
沼袋2丁目18番(4号棟)民有地試掘(8/29) [国 庫補助]		南台3丁目6番民有地試掘(3/6～3/7) [原因者]
		松が丘1丁目34番電気関連工事立会 (3/20)
		本町2丁目15番民有地立会 (3/24)
		新井4丁目18番民有地立会 (3/30)

寄贈資料一覧

2022年8月～2023年7月 敬称略：受入順

資料名	点数	氏名・団体名	資料名	点数	氏名・団体名
張巧器(室内張物湯のし器)	1	細井 郁子	直良信夫氏著作書籍	47	中澤 千枝子
馬の鞍	1		年譜および著作論文目録	1	
大河原家文書	43	大河原 昌夫	中野町誌	1	匿名
野方斎堂 外観・内観写真	2	三井 高尚	関東大震災関連資料	一式	大西 久江
中野署管内宮園三町会隣組第二 組防犯当番	2	奥田 緑	温古集、扇面、小千谷市史	各一式	東 九三雄
木目込ヒナ人形	一式	並木 俱子	フライヤー、画像・資料(デー ター)、財団当時の冊子等 パンフレット・ポスター・音源 資料他	各一式	株式会社 中野サンプルザ
山崎家ひなだんと 山崎喜作・千枝氏写真	2	斉藤 敏子			

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。